

インターバンクの声（2016 年 9 月 12 日）

9月2日の米雇用統計発表後に付けた 104 円台前半をドルの上値に、その後、101 円台前半までドル売りが進んだ円相場だったが、先週末どうにか 103 円越えまで値を戻し、102 円台後半でニューヨーク市場を終えた。米経済指標結果と米連邦準備制度理事会 (FRB) の高官発言に、その都度市場が振り回される展開が続いている格好だが、ハト派寄りとされているボストン連銀のローゼングレン総裁が早めの利上げが妥当との考えを表明したことで、改めて後退していた9月の利上げもあり得るとの見方が広がったためだ。週明けの今日もブレイナードFRB理事やミネアポリス連銀総裁の講演が予定されているが、明日以降は連邦公開市場委員会 (FOMC) 前のブラックアウト期間に入ることから、彼らの発言が FOMC 前の最後の高官発言になる。ハト派とされるブレイナード理事がローゼングレン総裁に続いて利上げに前向きな発言をするようなことがあれば、円相場もさらに円安に傾いて FOMC を迎える可能性もあるだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。